



— 放射能検査を続ける。 —

パルシステムの約束。

放射能汚染の問題は時間とともに変化していきます。

原発事故直後は農産物への放射性物質の付着が問題になりました。1～2年後からは土壌汚染が問題になり、長期的には果樹、水産物など人が放射能汚染を管理しにくい品目への影響も心配されています。

国内での現状はどうなっているのでしょうか？

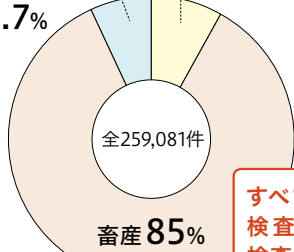
知って
いましたか？

測定方法にバラツキ、偏り。「行政検査」は、
検出限界も統一されていません。

行政検査の
検出限界

水産 6.7%

農産 8.3%

「行政検査」を
していても...

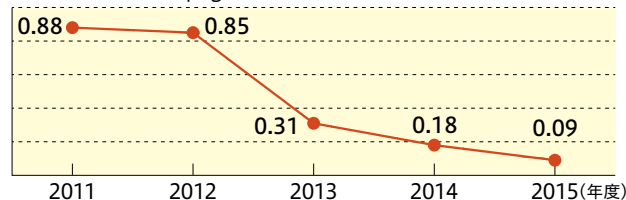
すべての国産牛肉を
検査している畜産が
検査数の多くを占める

【行政検査の実施件数(2015年度、消費者庁など共催「食品放射性物質に関するリスクコミュニケーション」資料から)】

知って
いましたか？

国の基準値 (100Bq/kg) の
超過率は減少。

【行政検査での100Bq/kg 基準超過率】 (%)



しかし
品目によっては、
「検出」が
続いています

【2016年度行政検査】

市販品のしいたけ

53%

検査数1,675

検出

不検出47%

市販品のたけのこ

52%

検査数1,366

検出

不検出48%

(検出限界10～25Bq/kg)

国内の食品の放射能は、主に行政が検査を行っています。「行政検査」とは、検査対象や頻度を国が都道府県に示して行われる検査です。2015年度は約26万件が行われています。しかし、検査の進め方には課題があります。まず、国の方針で牛肉の「全頭検査」を行っている畜産の検査が全体の85%を占めるなど、検査対象に偏りがあり、その分ほかの食品の検査に力が注がれない状態です。牛肉だけでなく、放射能が心配な品目に重点を移して、検査を続けることが必要なのです。そのため屋外で採取される山菜などは、ときおり高濃度で検出されるにも関わらず、検査が行き届かず、検査されないまま流通している可能性があります。

また、検査全体の80% (2016年度) は、簡易的な方法 (ヨウ化ナトリウム検出器など) で行われるため、精度が比較的低くなっています。「検出限界値」がバラバラなものも問題です。検査によっては検出限界値を比較的高く設定していることもあります。検出限界25Bq/kgの場合、たとえば、5～10Bq/kg含まれていたとしても「検出せず」という結果になってしまいます。

行政検査で検出された値は公表され、国の基準値を超えた場合には出荷停止など、措置が取られます。

2011年度以降、全体の検出率は毎年下がり続け2015年度は、0.09%まで低下していますが、品目によって放射能を吸収しやすいものがあり、検出が続いています。行政検査では、しいたけは53%、たけのこは52%から放射能が検出されています。国の基準値の超過率は低くなっていますが、一般食品の基準値は100Bq/kgとパルシステムの自主基準と比べて高いままです。

検出が続いているにもかかわらず、全体の検出率が低下したことと、17都県でこれまでに約40億円^(※1)と多額の費用がかかっていることを理由に、今後、行政検査は縮小していくことが視野に入られています^(※2)。

パルシステムでは、放射能(放射線)の健康影響にはしきい値(これ以下なら安全という限度)がないことを前提として、自主基準を改定し食品の放射能を可能な限り下げる努力を産直産地と続けていきます。

※1 常勤職員の人件費除く

※2 消費者庁主催「食品中の放射性物質に対する取組と検査のあり方を考える」より(2016年9月)

産地のために。組合員のために。パルシステムは「食べていく」ことを応援します。

昨年11月の新聞報道で福島からの避難者へのいじめがありました。

正しい情報がないと、放射能は怖い、福島や茨城の食べものはやめようという発想をする人もいます。放射能検査で放射能がどのレベルなのかを測定して、分析していくことがいかに大事なことを痛切に感じました。また、検査のみで終わらせることなく、そのデータを産地やメーカーにお知らせし、低減に向けた対策をとっていただくことも重要です。

震災以降、スーパーマーケット等で、放射能検査が行われ、検査済みの表示が目につきましたが、今はほとんど目にしません。

放射能への取り組みは一過性で終わらせることはできません。状況を正しく認識して、安心して食べてもらえるように、組合員に納得して食べてもらえるようにパルシステムでは測定しています。

とくに福島で生活している、組合員や生産者などががんばっている人たちにも利用してもらえるようにと、検査しています。精密に検査して、判断していくことがますます重要になると考えています。不安をあおるのではなく、「食べていく」ことを応援していきたいと考えています。

パルシステムのように多くの品目で検査を行うと微量に検出する場合があります。一方、

市販品の場合、検査されていない商品がほとんどです。その場合あたかも検査がされていないものの方が安全だと感じてしまうことがあります。きちんと測定し、信頼できる数値を示していくことが大事であると考えています。

パルシステム連合会 広報本部部長 高橋宏通

【検出限界 (Bq/kg ヨウ素131、セシウム134、137それぞれ)】

	パルシステム	行政検査
乳幼児用食品	1	
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3	10～25の ものが多い

放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告（2016年12月16日までの検査結果）

＜ 2016年度上半期の検査数(カッコ内は検出件数) ＞ 不検出率:98.3%

青果	458 ⁽¹⁾	牛乳・乳製品	69	飲料水・飲料	56
しいたけ	60 ⁽³⁹⁾	肉類	21	その他(加工)食品	1356 ⁽¹⁾
きのこ類 (しいたけ除く)	116 ⁽⁴⁾	魚介類	243	総計	2757 ⁽⁴⁷⁾
米	67 ⁽²⁾	乳幼児用食品	311		

＜ 検査結果:2016年12月16日現在 ＞ ※乳幼児用食品は2016年より1Bq/kgに検出下限値を下げました。 ※鶏卵は2017年に計測予定です。

青果	2016 年5 月に小田原のバレンシアオレンジの3 件中1 件から3.2Bq/kg が自主基準内で検出されました。	牛乳、肉	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。
しいたけ	生しいたけ (3.1～13Bq/kg) で放射能が自主基準内で検出されました。	魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
他のきのこ類	しめじ(ひらたけ) (3.0～3.5Bq/kg)、ぶなしめじ (3.1Bq/kg) で放射能が自主基準内で検出されました。他のきのこ類は放射能不検出です。	乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kg で検査を行っておりますが、すべて不検出です。
米	2016年産米の検査は27産地67検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり (玄米)を検査したところ、2件 (3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。米の全産地の検査は終了しました。 ※放射能はぬか部分に多く蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。	その他食品 (お料理セット)	肉・豆腐などは定期的に検査を行っています。野菜のみを毎月検査を別途行っています。菌茸類については毎週検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮 (3.4～14Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌茸類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ、まいたけ)からの検出はありません。
		その他食品 (大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2014 年産および2015年産原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものがありますが、放射能は検出されていません。
		その他食品	ブルーベリー& ルテイン (6.5Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。



測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分だけを取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

パルシステムの自主基準 (独自ガイドライン)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について**自主基準 (独自ガイドライン)**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、自主基準 (独自ガイドライン) は継続的に見直しを行います。

自主基準 (独自ガイドライン) (セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準 (単位Bq/kg)		国の規格基準	
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10	水、飲料茶	10
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、海藻類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25	乳児用食品、牛乳	50
しいたけ	100	一般食品	100

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。
※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界 (ヨウ素131、セシウム134,137それぞれ) 2016年4月1日から新基準に変更 (単位Bq/kg)	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

● フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産 (新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

- 青果は、北海道を除く東日本 (新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県) のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
- 水産は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。
- 検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・冷凍・常温の各加工品は年1回計測しています。

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページで掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡

パルシステム
問合せセンター

☎ 0120-868-014 月～金曜日:9時～20時 / 土曜日:9時～17時

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲府センター ☎ 0120-28-5891
西桂センター ☎ 0120-32-1061
一宮センター ☎ 0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ☎ 0120-60-5118
渋川センター ☎ 0120-36-3315
東毛センター ☎ 0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。



『のんびる』3月号特集は「福島」。

今、福島のおモイに寄り添うために私たちにできること



「検査を受けようと思ったのは?・・・よくも悪くも現実をみたいという気持ちです」(組合員Aさん・3児の母)

- みんなで子どもを守る! 甲状腺検査
- 飯舘村の若者が撮り続けた6年。 “帰れない故郷”と“故郷のみそ”。 他

多くの人が今も避難生活を続けるなか、地域・世代・イデオロギーをこえた人と人のつながりから、これからの福島との向き合い方を考えます。



コトコト・きなり

190608

pal

『のんびる』

2017年3月号

300円(税込324円)

※今回ご注文いただくと3月号から毎月お届けします。3月号のお届けは2月13日(月)～17日(金)です。内容の一部が予告なく変更になる場合があります。ご了承ください。

のんびる

検索